

別表（第二条関係）

区 分	方 法
一 試薬 の調製	
(一) 〇・ 一モル毎 リットル塩 酸	希塩酸(塩酸(三十五パーセント以上)と蒸留水を容量比一対一の割合で混合したもの)をガラス製蒸留器で蒸留して得た共沸混合物を蒸留水で〇・一モル毎リットルとなるように希釈する。
(二) 銅 標準原液	標準試薬銅(九十九・九七パーセント以上)一・〇〇〇グラムを少量の硝酸(六十パーセント以上)に溶かした後、約百ミリリットルの蒸留水を加えて煮沸し、冷却後、蒸留水を加えて一・〇〇〇リットルとする。
(三) 銅 標準液	使用の都度、銅標準原液を〇・一モル毎リットル塩酸で百倍に希釈する。
二 試料 液の調製	試料十・〇グラムを容量百ミリリットルの広口びんに入れ、〇・一モル毎リットル塩酸五十・〇ミリリットルを加えて、これを恒温水平振り混ぜ機で摂氏約三十度に保つて約一時間振り混ぜた後、乾燥ろ紙(日本工業規格五種Bのもの)でろ過する。
三 検定 の操作	試料液(銅の含有量が試料液一リットルにつき十五ミリグラムを超える場合にあつては、銅の含有量が試料液一リットルにつき十五ミリグラム以下になるよう〇・一モル毎リットル塩酸でn倍に希釈する。)を原子吸光分光光度計にかけ、三千二百四十七オングストロームの波長で吸光度(A)を測定する。

	別に、銅標準液及び0.1モル毎リットル塩酸を、それぞれ、原子吸光分光光度計にかけ、三千二百四十七オングストロームの波長で吸光度(A_s 及び A_o)を測定する。
四 試料 の水分の 測定	試料(W_1 グラム)とこれを摂氏百五度で約四時間乾燥して得たもの(W_2 グラム)をくらべて水分を測定する。